

「原爆を体験した人の思いに寄り添い、伝えていく責任を感じている」。2年前、広島県原爆被害者団体協議会（坪井直理事長）の事務局長に就き、核廃絶に向けた活動を支えている。

鹿児島市出身。鶴丸高校、鹿児島大学を経て広島大学大学院に進学した。修了後は広島市役所に就職。在職中も、平和記念公園にある「国立広島原爆死没者追悼平和祈念館」と「原爆資料館」の両館長を、合計10年以上務め、記憶の継承や発信に深く携わってきた。

原爆被害を伝える広島県被団協事務局長

かお

まえだ こういちろう
前田 耕一郎さん



8年前、アフガニスタンのカルザイ大統領（当時）に資料館を案内したことが印象に残っている。「これだけ破壊されても復興が遂げられる。自分たちにもできるはずだ」という言葉に、「広島は紛争地の希望に

もなれる」と強く感じた。国連では昨夏、いかなる核兵器の使用も国際法に反するとした核兵器禁止条約が採択された。しかし、日本は現時点で不参加。「政府の判断には国民の関心の低さが表れている。署名活動などの

地道な活動で機運を高めると強調する。原爆投下から73年。被害者は約15万人と半分以上に減り、平均年齢は82歳を超えた。「被爆2世や理解者による活動に軸足を移さざるをえない」と話し「原爆は貧困や差別を生んだ。現代社会の問題と重ねて考えてほしい」と訴える。

3人の子どもは独立し、広島市安佐北区で妻の朋子さん（64）と暮らす。日本酒が盛んな地域だが「もちろん焼酎派」と頼もしい、69歳。

（中咲貴稔）